





レナ

う、うう…失敗したわ…。



身体は熱く火照り、頭がガンガン痛む。
矢先の毒が、レナの身体にまわっていた。



マギサ

うふふッ、飛竜を追って、やって来たけど、
とんだ獲物がかかったわ！



マギサ

見ればタイクーンの王女！

だんなへ、いいみやげになるわ。ヒッヒッ…！





レナ

誰か知らないけど、
こんな、やめて…今ならまだ…。



マギサ

ふん、金持ちの、お貴族さまに、
なにを言われたって聞こえてこないわね！



マギサ

自分の立場をわからせてあげるわ、
あんた、出番だよ！



フォルツァ

お、おおお…女…。





筋肉粒々の夫、フォルツァが姿をあらわして、
レナの服を、一気にめくりあげた。



レナ

ぎゃあ、やめて…こんなこと…。



山賊マギサ

ふふっ、いい気味ね、

生意気な口をきけないようにしてあげるわ！





レナ

いやああああああ、やめてっ…こんな…っ



マギサ

ふん、綺麗な色してるじゃない、
どうせバージンなんでしょ、ご立派なことね。



フォルツァ

女あ…俺…犯す…。





レナ

あ、んっ……やだ、こんな……、
はあ、あ……だめなのに……なん、でっ……。



マギサ

レイプで処女を散らされながら、
よがるなんて、とんだ王女様じゃないか。



マギカの毒による強烈な催淫作用で、
レナの秘部からは、とめどなく愛液があふれる。



フォルツァ

んおお、お…これは、極上の雌壺だ、
お、おおおおおつ。





レナ

ん、んんんっ…あ、ああ…そんな、ナカに…。



マギサ

あはは、これでガキができれば、
うちらも王族の仲間入りかい、やったねアンタ！





レナ

はあ、はあ…うう、こんなの…ひどい…。



そんな時、
遠くから声が聞こえてくる——



バツツ

レナ、どこだ…だいじょうぶかつ！



マギサ

ヒッヒ、ようやくの到着かい、待たせやがって、
もう手遅れだってのにねえ…。(笑)



レナ

(…だめ、みんな…来ないで…、
ああ、こんな姿、見ないで…バツツ…)









